

文化財を訪ねて 7



もくぞうびしゃもんでんりゅうぞう

木造毘沙門天立像

～平安の昔から～

かみたかの 豊中町上高野地区にある せいげんじ 誓源寺の東隣にある毘沙門堂には、木造毘沙門天立像（市指定有形文化財）が安置されています。

毘沙門天は仏教世界の四方を守る神 たいしゃくてん 帝釈天に仕える四天王のひとつ、たもんでん 多聞天の別名であり、戦の神として知られ、足利尊氏や上杉謙信の守り本尊として崇拝されました。

本像は、高さ88cm、いちぼくづくり ヒノキの一木造で、12世紀（平安末期）に地方仏師によって製作されたものと推定されます。大きく見開いた目や、力強く結ばれた口元に厳しさを見せながらも、どこか穏やかさを感じさせる秀作です。

現在も地元講中を中心に崇拝され大切に守られてきた本像は、普段は拝観できませんが、毎月3日に公開されます。特に毎年6月の第2曜日（今年は6月13日）には大祭が行われ、遠方からも多くの参拝者が訪れています。

800年近くも昔から伝わる文化財。地域住民一人ひとりの、文化財を大切に思う気持ちがあるからこそ守り続けてこられたものです。これら文化財を更なる未来に引き継いでいくことこそ、現在を生きる私たちの責務ではないでしょうか。

<生涯学習課>

今月の市民力

お徒歩でいく仁尾なつかし味めぐりのガイドさんは、現在7人。皆さん普段は会社に勤めていたり、専業主婦だったりします。仁尾のまちが大好きでガイドを始めた人ばかり。町並みを案内する時に使う当時の写真や説明文は、すべて自分たちで工夫して作ったものを使っています。港町、商人のまちとして栄えた仁尾。その歴史や文化をより多くの人に知っていただこうと、日々がんばっています。

